

「+あんしん*」表彰・表示制度の意義・課題

*誤使用・不注意による製品事故リスクを低減した製品の表彰・表示制度

西田佳史

東京科学大学工学院機械系

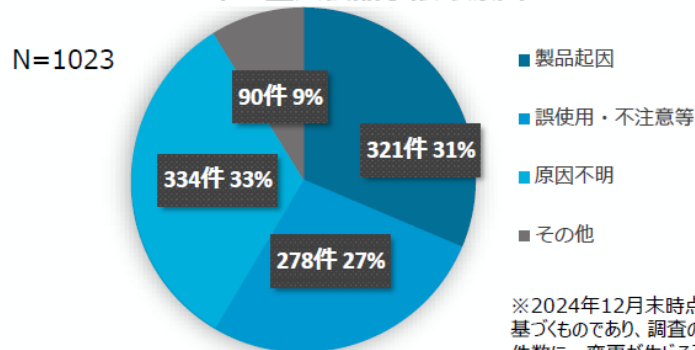
必然のリスクが誤使用・不注意・知識不足の問題として片づけられている現状

高齢層・若年層における重大製品事故（誤使用・不注意等）

背景、現状

- 一般的に年齢が高まるにつれ身体・認知機能の低下することから、誤使用・不注意による重大製品事故が60代、70代、80歳以上では6割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

2022年 重大製品事故の原因



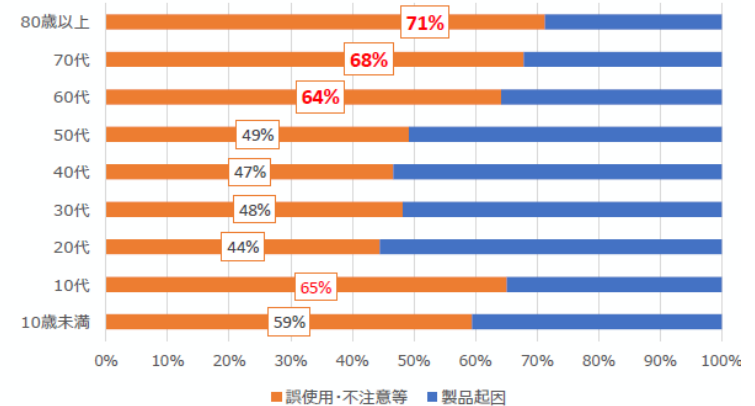
※2024年12月末時点の調査結果に基づくものであり、調査の進展を受けて件数に変更が生じる可能性がある。

誤使用事故の例

ベビーカー	父親がベビーカーを開く際に、 <u>誤ってフレームの接続部に3歳児の指を挟み、小指の先端が切断。</u>
除雪機	70代の高齢者が、 <u>緊急停止機能をキャンセルして除雪機を使用中に、壁と除雪機に挟まれ死亡した。</u>
ガスこんろ	80代の高齢者が、 <u>マフラータオルを首に掛けたままガスこんろを使用中に、マフラータオルに着火し火傷を負った。</u>
ドア	子供が、 <u>玄関ドアに手を掛けて靴を脱いでいる間にドアが閉まり、右手親指を挟み骨折した。</u>
暖房便座	80代の高齢者が、 <u>暖房便座に30分弱座っていたことで低温火傷を負った。</u>

身体・認知機能が低下した高齢者による誤使用等事故が多くなっている

製品起因と誤使用・不注意等の事故割合（2020年～2022年）



出典：消費生活用製品安全法に基づいて消費者庁から経済産業省製品安全課に通知された重大製品事故（事故の受付日ベース）を基に経済産業省製品安全課で集計
 ※製品起因と誤使用・不注意等による重大製品事故の合計件数を分母とし、それぞれの割合を示したもの。
 ※2022年12月末時点の調査結果に基づくものであり、調査の進展を受けて件数に変更が生じる可能性がある。
 ※NITEによる事故調査の結果、負傷者等の年代が判明したものを計上。
 ※事故にかかる複数人の年代が判明したものは、負傷者、使用者、所有者の順に優先して計上。
 ※判明した年齢に幅がある場合や複数人負傷者等がある場合、より低い年代で計上。
 ※「小学生」は10歳未満、「中学生」「高校生」は10代、「大学生」は20代で計上。

心身機能の変化に対応する新たなユニバーサルデザインへの社会ニーズ

社会背景：高齢者の重大製品事故の増加



フレイル



要支援・要介護



製品事故多発

これまでは、
誤使用・不注意起因と
分類されていた



**ユーザが必然的に
取る行動であり、不可避**

立ち座り動作時発生した身体保持力場



机、ひじ掛け、フットレスト、床

寝起き動作時発生した
身体保持力場



棚、たんす、ふすま、窓枠、ベッド、床

段差昇降時発生した身体保持力場



手すり、棚、窓枠

衣服・靴の着脱時発生した
身体保持力場



肘掛け、棚、キッチン、テレビラック

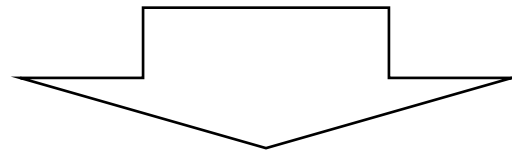
[1]

人が変わり続けることを織り込むデザイン・
誤使用／不注意だけに帰属させない方向が必要

[1] Nomura, A.; Nishida, Y. Portable Technology to Measure and Visualize Body-Supporting Force Vector Fields in Everyday Environments. *Sensors* 2025, 25, 3961

企業の製品安全に関する取組を表彰する意義

- ✓ 企業の積極的な取組を評価し、対外的に発信することにより、製品安全を重要な価値として社会に浸透させ、「製品安全市場」を構築することを目指す。
- ✓ さらに、製品安全コミュニティを拡大し、企業間の横の連携を促進することにより、製品安全の実現に向けて取り組む企業を増加させる。



製品安全が持続的に高まる社会へ

＋あんしん 次年度に向けた期待・要望など

- 対象製品
 - 応募製品の間口を広めるため、1社1製品に限定せず、危害シナリオが共通するシリーズ製品など複数製品の応募を認める仕組みを検討
- 評価方法
 - 分かりやすい評価の仕組みを設定、応募者向けガイドラインの改善
- 事業者のリスクアセスメント力の向上
 - 事業者のリスクアセスメント力向上のための対応を検討
- 十あんしん表彰・表示制度の周知
 - 受賞製品のホームページ掲載、新聞掲載、表彰式の実施、一般消費者向けイベントへの参加を通じて制度の認知度の向上